

結城で震度6弱の地震発生、その時 約40の協力機関が結集して訓練

結城市総合防災訓練が11月25日、結城市民文化センター「アクロス」を会場に行われました。消防や警察、自衛隊、市内の自主防災組織、日本搜索救助犬協会など約40の機関・団体が参加し、緊迫した訓練でした。防災広場では、結城市内の園児たちが参加。消防車やパトカーに乗ったり、ショベルカーの見事な運転を見たりしたあと、避難訓練も行いました。

午前9時、結城を震源とする直下型地震が発生。震度6弱で、家屋倒壊やライフラインが分断されたとの想定で訓練がスタート。対策本部を設置し、災害ボランティアセンター設置、被害状況把握、市内への広報車による被害状況などの広報、初期消火訓練などを実施。

IIFのDMAT（災害派遣医療チーム）と城西病院のJRRT（城西グループ急変対応チーム）も参加。アクロス屋上に重傷者を含む4人が取り残され、倒壊家屋に負傷者が多数という想定で実施。日本赤十字社のセスナが空中から被害状況を確認した後、DMATの看護師1人が消防署員とともにはしご車で屋上に登り、取り残された負傷者の状況を確認。消防でははしご車やロープを使って屋上から搬送された患者を救護所に運ぶとともに、倒壊家屋から助け出された人々も救護所に搬送し、処置を行いました。

平成30年11月26日



城西病院のDMATも訓練に参加

